

く覆たるハ花のたもち久しき物也、心を付べし。

一花壇の引幕ハ、或ハ紫或ハ黒く、あるひハ青きよし、赤白の二色ハあしかるべし。

〔剪花翁傳前編二三月開花〕牡丹牡丹 季ハ四月なれど、剪花者ハ好て蕾蓓を剪を以て春牡丹と稱す、花の色

赤、淡紅、中紅、濃紅、底紅、紫、白、朱、諸色、班入等、花名數十種、枚舉すべからず、開花三月末、八十八夜頃也。

方日向、西北の塞がりし所いとよし、春彼岸より専ら風透をよくすべし、地花壇三分濕、土回蘆、肥

寒中大便、移春彼岸、又立冬前後よし、接春彼岸、切接にすべし、春芽出し前、油粕を入べし、又十日ば

かり、經て一度、又同じく一度、都合二十日に兩度許入べし、花の時に兩覆ひすべし、夏月炎天に霞

簀もて日覆ひすべし、花辰の刻より開きて直花亂れ、花共に約やかに正しく、未の刻より葩收て

薬を掩ひ包む、翌日亦開くこと、昨日のごとし、是のごとくなること、四五日におよぶを上花とす、

下花なるは開し形ち約かに正しからず、葩外裏に反て、聊も薬を掩ひ包まずして凋む也、さて花

壇の花の明日咲べきを、今日開かんことを需バ、兩三日已前より藁筵などをもて四方を圍ひ、油

障子を覆ひ、天日を隔て受べし、乃今朝開花すべし、又今日開くべき蕾を、明日迄保たせんにハ、若

莖而已を、昨夕方に剪て、逆水をかけ、水器に入、雨風の當らぬ冷陰の所におくべし、冷害あらバ、愈

よし、夜に入て水器と共に紙袋を覆ひ、戶外の庭に置く、雨も亦厭ふべし、戶外ハ夜分冷氣強し、斯

して明日まで開かず、○中因に云、千兩牡丹是春牡丹の一種也、開花も育方も上に同じ、花の色初

開は極紅にして、中頃ハ白く、後は淡紅になる也、每一輪に是のごとく色變れり、此樹ハ池田北の

口より三町許北木の部村、牡丹屋嘉十郎の庭中に在、是一家の珍花にて、剪花者の扱へるものに

あらざれど、名種たるをもて出せり、○中因に云、千兩牡丹是春牡丹の一種也、開花も育方も上に同じ、花の色初

牡丹觀賞

〔地錦抄〕牡丹凡例

牡丹は總體を九品に分て見るべし、九品と云は、一位、二形、三色、四重、五實、六藥、七葩、八葉、九木也。